

注3

大学番号：私175

[平成29年度設置]

計画の区分：大学の設置

注1

認可

一宮研伸大学

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 研伸学園
令和元年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	
職名・氏名	ソウムカ 総務課 ムラカミ 村上 ショウコ 翔子
電話番号	0586-28-8110
（夜間）	0586-28-8110
F A X	0586-25-2800
e-mail	s.murakami.o@ikc.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について
(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 研伸学園

(2) 大 学 名

一宮研伸大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒491-0063

愛知県一宮市常願通五丁目4番1（愛知県一宮市常願通五丁目4番）

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（ ）書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(イトウ シンイチ) 伊藤 伸一 (平成15年12月)		
学 長	(ドイ マツコ) 土井 まつ子 (平成29年4月)	(モリタ セツコ) 森田 せつ子 (平成31年4月)	体調不良のため、平成31年4月1日付け学長交代(元)
学 部 長	(コバヤシ たつこ) 小林 たつ子 (平成29年4月)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（ ）書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称(学位)	学位又は学科の 分野	設 置 時 の 計 画				備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4 年	80 人	年次 6 人 (3年次)	332 人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から報告 年度までの平均 入学定員超過 率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	人 80 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 80 (-) [-]	人 - (-) [-]	人 80 (6) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	人 - (-) [-]	- 倍	1.17倍	
志願者数	234 (-) [-]	- (-) [-]	246 (-) [-]	- (-) [-]	246 (1) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	217 (-) [-]	- (-) [-]	235 (-) [-]	- (-) [-]	231 (1) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	166 (-) [-]	- (-) [-]	152 (-) [-]	- (-) [-]	157 (1) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	97 (-) [-]	- (-) [-]	98 (-) [-]	- (-) [-]	87 (1) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	1.21		1.22		1.09		-				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期
1 年次	97 [-] (-)	- [-] (-)	98 [-] (-)	- [-] (-)	87 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
2 年次			93 [-] (-)	- [-] (-)	94 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
3 年次					90 [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4 年次							- [-] (-)	- [-] (-)
計			97 [-] (-)	191 [-] (-)			271 [-] (-)	- [-] (-)

備 考

3 年次90名の内1名が編入学生

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [-]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ (-)内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成29年度	97 人	4 人	平成29年度	4 人	- 人	・他の教育機関への入学・転学(2人) ・就学意欲の低下(2人)
平成30年度	191 人	8 人	平成29年度	4 人	- 人	・進路変更(1人) ・一身上の都合(1人) ・就学意欲の低下(1人) ・健康問題(1人)
			平成30年度	4 人	- 人	・進路変更(1人) ・一身上の都合(3人)
令和元年度	271 人	0 人	平成29年度	0 人	- 人	
			平成30年度	0 人	- 人	
			平成31年度	0 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	平成29年度	- 人	- 人	
			平成30年度	- 人	- 人	
			平成31年度	- 人	- 人	
			平成32年度	- 人	- 人	
合 計	271 人	12 人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{97} = \boxed{4.12} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{8}{191} = \boxed{4.18} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{271} = \boxed{0} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人間・社会学関連科目	心理学	1前	2			1					兼1
	哲学入門	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1後	1								兼1
	運動の科学・実技	1後	1								兼1
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	加齢の科学	1後		1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2前		1							兼1
コミュニケーション関連科目	生命倫理	3前		1		1					兼1
	支援論	3前		1							兼1
	国語表現	1前	2						1		兼2
	英語Ⅰ	1前	2								兼2
	英語Ⅱ	1後		2							兼2
	コミュニケーション論	1後	1			1					兼1
	中国語	2前		2							兼1
自然科学関連科目	ポルトガル語Ⅰ	2後		2							兼1
	ポルトガル語Ⅱ	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1前	2			1					兼1
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1前		1		1					兼1
智の創造関連科目	情報科学	1後	2			1					兼1
	微生物学	1後	1						1		兼1
	性と生殖の科学	2前		1							兼1
	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
	研究入門	1後	1			1			2		
	連携ゼミナールⅠ	2通	1			9	5	6	2		
	連携ゼミナールⅡ	3通	1			9	5	6	2		
人体の構造と機能	アカデミックライティング	3前		1		1			2		
	英語文献講読	4後		1							兼1
	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1					
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床栄養学	2前	1								兼1
	病態治療学概論	1後	1			1					
	病態治療学Ⅰ	2前	2			1					兼3
	病態治療学Ⅱ	2後	2			1					兼3
	病態治療学Ⅲ	2後	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
健康支援と保健医療システム	こころの科学	3前	1								兼1
	看護援助的関係論	1後	2			1	1	2			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
看護の基礎	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼2
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1		1					兼2
	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2					
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅲ	2前	2			2	1	1	1	2	
看護の基礎	基礎看護学Ⅳ	2後	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	4	
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	4	
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	1		
	看護学入門Ⅱ	1前		1		1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人間・社会学関連科目	心理学	1後	2				1				兼1
	哲学入門	1前		1							兼1
	文化人類学	1前		2							兼1
	現代社会と経済	1前		2							兼1
	運動の科学	1前		2							兼1
	運動の科学・実技	1前	1								兼1
	ジェンダー論	1後		1							兼1
	加齢の科学	1後		1							兼1
	法学	2前		2							兼1
	現代社会と家族	2後		1							兼1
コミュニケーション関連科目	生命倫理	3前		1		1					兼1
	支援論	3前		1							兼1
	国語表現	1前	2						1		兼2
	英語Ⅰ	1前	2								兼2
	英語Ⅱ	1後		2							兼2
	コミュニケーション論	1後	1				1				兼1
	中国語	2前		2							兼1
自然科学関連科目	ポルトガル語Ⅰ	2後		2							兼1
	ポルトガル語Ⅱ	3前		1							兼1
	医療英語	3前		1							兼1
	生物と環境	1前	2								兼1
	統計学	1後	2				1				兼1
	化学	1前		2							兼1
	情報リテラシー	1前		1			1				兼1
智の創造関連科目	情報科学	1前		1			1				兼1
	微生物学	1後	1						1		兼1
	性と生殖の科学	2前		1			1				兼1
	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
	研究入門	1後	1			1			2		
	連携ゼミナールⅠ	2通	1			9	6	6	2		
	連携ゼミナールⅡ	3通	1			9	6	6	2		
人体の構造と機能	アカデミックライティング	3前		1		1			2		
	英語文献講読	4後		1							兼1
	生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1					
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1					
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1					
	解剖生理学演習	2前	1			2					兼1
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床栄養学	2後	1								兼1
	病態治療学概論	1後	1			1					
	病態治療学Ⅰ	2前	2			1					兼3
	病態治療学Ⅱ	2後	2			1					兼3
	病態治療学Ⅲ	2後	2			1					兼4
	生体防御機構と免疫	1後		1		1					兼2
	臨床薬理学	2前	2			1					兼1
健康支援と保健医療システム	こころの科学	3前	1								兼1
	看護援助的関係論	1後	2			1	1	2			
	医療と看護の倫理	1後	1			1					
	医療概論	1後		1							兼1
	疫学	1後		1		1					
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1					
	公衆衛生学	2前	2			1					
看護の基礎	医療経済	3後		1							兼1
	音楽療法	3後		1							兼2
	看護情報学	4後		1							兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1			1				兼2
	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2					
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅲ	2後	2			2	1	1	1	2	
看護の基礎	基礎看護学Ⅳ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2	
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	2	
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	2	
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	0		
	看護学入門Ⅱ	1前		1		1					

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
看護 の 実 践	健康生活支援看護論	2前	2			1					
	プライマリヘルスケア論	2前	2			3	1				
	家族の健康と看護	2前		1		1					兼2
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1		1	1		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1		1	1	1	
	女性の健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	1	1	
	在宅看護論	2後	1			1	1	1			兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1		1	1		
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	2		
	療養生活支援看護実習	3後	4			1		1	2	1	
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1		2			
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1					2		1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3					2		2	
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2				1				
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2				2		1		
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	1		
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1					
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1	1	1			
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1	1	1		1	
看護 の 統 合 と 発 展	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1				1			
	クリティカルケア論	4前		1				1			兼2
	緩和ケア論	4前		1				1			
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
	看護教育学	3後		2		1					
	国際看護論	3後		1							兼4
	看護管理学	4前		2		1		1			
助産 師 課 程 専 門 科 目 群	災害看護論	4前		1							兼1
	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	5	6	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
	総合看護実習	4後		3		2	3	7	5		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼6
	助産学総論	3前		1		1					兼1
助産 師 課 程 専 門 科 目 群	助産管理論	3前		2		1		1			兼1
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1		1	1		
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1		1	1		
	助産学演習	4前		1		1		1	1		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1		1	1	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1		1	1	1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上[人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上]、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間])											
上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものと認める。											

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
看護 の 実 践	健康生活支援看護論	2前	2			1					
	プライマリヘルスケア論	2前	2			3	1				
	家族の健康と看護	2前		1		1					兼3
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1	1	1	0		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1	1	1	0	1	
	女性の健康生活支援看護実習	2後・4後	2			1	1	1	0	1	兼1
	在宅看護論	2後	1					1	0		
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1		1	0		
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	1		
	療養生活支援看護実習	3後	4			1		1	1	1	
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1		2			
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1					2		1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3					2		2	
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2				1				
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2				2		1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2				2		1		
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	1		
	こどもの健康生活支援看護実習	2後・4後	2			1		1	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1					
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1	1	1			
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1	1	1		1	
看護 の 統 合 と 発 展	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1				1			
	クリティカルケア論	4前		1				1			兼2
	緩和ケア論	4前		1				1			
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
	看護教育学	3後		2		1					
	国際看護論	3後		1							兼4
	看護管理学	4前		2		1		1			
助産 師 課 程 専 門 科 目 群	災害看護論	4前		1							兼1
	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	6	6	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
	総合看護実習	4後		3		2	4	7	3		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼5
	助産学総論	3前		1		1					兼1
助産 師 課 程 専 門 科 目 群	助産管理論	3前		2		1	1	1			兼2
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1	1	1	0		
	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1	1	1	0		
	助産学演習	4前		1		1	1	1	0		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1	1	1	0	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1	1	1	0	1	
卒業要件及び履修方法											
必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上[人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上]、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間])											
上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものと認める。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

【平成29年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
人間・ 社会学 関連 科目	心理学	1前	2				1					兼1
	哲学入門	1前		1								兼1
	文化人類学	1前		2								兼1
	現代社会と経済	1前		2								兼1
	運動の科学	1前	1									兼1
	運動の科学・実技	1後	1									兼1
	ジェンダー論	1後		1								兼1
	加齢の科学	1後		1								兼1
	法学	2前		2								兼1
	現代社会と家族	2前		1								兼1
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 関 連 科 目	生命倫理	3前		1		1						兼1
	支援論	3前		1								兼1
	国語表現	1前	2						1			兼2
	英語Ⅰ	1前	2									兼2
	英語Ⅱ	1後		2								兼2
	コミュニケーション論	1後	1			1						兼1
	中国語	2前		2								兼1
	ポルトガル語Ⅰ	2後		2								兼1
自 然 科 学 関 連 科 目	ポルトガル語Ⅱ	3前		1								兼1
	医療英語	3前		1								兼1
	生物と環境	1前	2									兼1
	統計学	1前	2				1					兼1
	化学	1前		2								兼1
	情報リテラシー	1前		1			1					兼1
	情報科学	1後	2				1					兼1
	微生物学	1後	1						1			兼1
	性と生殖の科学	2前		1								兼1
	智 の 創 造 関 連 科 目	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2		
研究入門		1後	1			1			2			兼1
連携ゼミナールⅠ		2通	1			9	5	6	2			兼1
連携ゼミナールⅡ		3通	1			9	5	6	2			兼1
アカデミックライティング		3前		1			1		2			兼1
英語文献講読		4後		1								兼1
人 体 の 構 造 と 機 能		生化学	1前	2			1					
	解剖生理学概論	1前	1			1						兼1
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1						兼1
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1						兼1
	解剖生理学演習	2前	1			2						兼1
	臨床栄養学	2前	1									兼1
	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	病態治療学概論	1後	1			1					
病態治療学Ⅰ		2前	2			1						兼3
病態治療学Ⅱ		2後	2			1						兼3
病態治療学Ⅲ		2後	2			1						兼4
生体防御機構と免疫		1後		1		1						兼2
臨床薬理学		2前	2			1						兼1
こころの科学		3前	1									兼1
健 康 支 援 と 保 健 医 療 シ ス テ ム	看護援助的関係論	1後	2			1	1	2				兼1
	医療と看護の倫理	1後	1			1						兼1
	医療概論	1後		1								兼1
	疫学	1後		1		1						兼1
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1						兼1
	公衆衛生学	2前	2			1						兼1
	医療経済	3後		1								兼1
	音楽療法	3後		1								兼1
	看護情報学	4後		1								兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1			1					兼2
看 護 の 基 礎	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2						兼1
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2		兼1
	基礎看護学Ⅲ	2前	2			2	1	1	1	2		兼1
	基礎看護学Ⅳ	2後	2			2	1	1	1	2		兼1
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2		兼1
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	4		兼1
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	4		兼1
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	1			兼1
	看護学入門Ⅱ	1前		1		1						兼1

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
人間・ 社会学 関連 科目	心理学	1後	2				1					兼1
	哲学入門	1前		1								兼1
	文化人類学	1前		2								兼1
	現代社会と経済	1前		2								兼1
	運動の科学	1前	1									兼1
	運動の科学・実技	1後	1									兼1
	ジェンダー論	1後		1								兼1
	加齢の科学	1後		1								兼1
	法学	2前		2								兼1
	現代社会と家族	2後		1								兼1
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 関 連 科目	生命倫理	3前		1		1						兼1
	支援論	3前		1								兼1
	国語表現	1前	2						1			兼4
	英語Ⅰ	1前	2									兼2
	英語Ⅱ	1後		2								兼2
	コミュニケーション論	1後	1				1					兼1
	中国語	2前		2								兼1
	ポルトガル語Ⅰ	2後		2								兼1
自 然 科 学 関 連 科目	ポルトガル語Ⅱ	3前		1								兼1
	医療英語	3前		1								兼1
	生物と環境	1前	2									兼1
	統計学	1後	2				1					兼1
	化学	1前		2			1					兼1
	情報リテラシー	1前		1			1					兼1
	情報科学	1前	2				1					兼1
	微生物学	1後	1						1			兼1
智 の 創 造 関 連 科目	性と生殖の科学	2前		1								兼1
	教養ゼミナール	1前	1			8	4		2			
	研究入門	1後	1			1			2			
	連携ゼミナールⅠ	2通	1			9	5	5	2			
	連携ゼミナールⅡ	3通	1			9	5	5	2			
	アカデミックライティング	3前		1			1		2			
	英語文献講読	4後		1								兼1
人 体 の 構 造 と 機 能	生化学	1前	2			1						
	解剖生理学概論	1前	1			1						
	解剖生理学Ⅰ	1前	2			1						
	解剖生理学Ⅱ	1後	1			1						
	解剖生理学演習	2前	1			2						兼1
	臨床栄養学	2後	1									兼1
	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	病態治療学概論	1後	1			1					
病態治療学Ⅰ		2前	2			1						兼3
病態治療学Ⅱ		2後	2			1						兼3
病態治療学Ⅲ		2後	2			1						兼4
生体防御機構と免疫		1後		1		1						兼2
臨床薬理学		2前	2			1						兼1
こころの科学		3前	1									兼1
健 康 支 援 と 保 健 医 療 シ ス テ ム	看護援助的関係論	1後	2			1	1	1				
	医療と看護の倫理	1後	1			1						
	医療概論	1後		1								兼1
	疫学	1後		1		1						
	保健・医療・福祉システム論	2前	2			1						
	公衆衛生学	2前	2			1						
	医療経済	3後		1								兼1
	音楽療法	3後		1								兼1
	看護情報学	4後		1								兼1
	コミュニケーション支援論	4後		1			1					兼2
看 護 の 基 礎	基礎看護学Ⅰ	1前	2			2						
	基礎看護学Ⅱ	1後	2			1	1	1	1	2		
	基礎看護学Ⅲ	2後	2			2	1	1	1	2		
	基礎看護学Ⅳ	2前	2			2	1	1	1	2		
	基礎看護学Ⅴ	2前	2			2	1	1	1	2		
	基礎看護学実習Ⅰ	2後	1			1	1	1	2	4		
	基礎看護学実習Ⅱ	3前	2			1	1	1	2	4		
	看護学入門Ⅰ	1前		1		2	2	1	0			
看護学入門Ⅱ	1前		1		1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
看護の実践	健康生活支援看護論	2前	2			1					
	プライマリヘルスケア論	2前	2			3					
	家族の健康と看護	2前		1		1					兼2
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1		1	1		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1		1	1	1	
	女性の健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	1	1	
	在宅看護論	2後	1			1	1				兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1	1	1			
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1	1	2			
	療養生活支援看護実習	3後	4			1	1	2	1		
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1		2			
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1					2		1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3					2		2	
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			2		1			
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2			2		1			
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2			2		1			
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		1	1		
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1					
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1	1	1			
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1	1	1		1	
看護の統合と発展	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1				1			
	クリティカルケア論	4前		1				1			兼2
	緩和ケア論	4前		1				1			
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
	看護教育学	3後		2		1					
	国際看護論	3後		1							兼4
	看護管理学	4前	2			1		1			
	災害看護論	4前		1							兼1
助産師課程専門科目群	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	5	6	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
	総合看護実習	4後	3			2	3	7	5		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼6
	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1		1			兼1
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1		1	1		
卒業要件及び履修方法	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1		1	1		
	助産学演習	4前		1		1		1	1		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1		1	1	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1		1	1	1	
	卒業要件及び履修方法										
	必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上[人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上]、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間])										
	上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。										
	(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)										
	・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。										
	・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。										
	・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。										
	・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は 太字の赤字 としてください。										
	・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。										
	・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。										
	・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)										

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
看護の実践	健康生活支援看護論	2前	2			1					
	プライマリヘルスケア論	2前	2			3					
	家族の健康と看護	2前		1		1					兼3
	女性の健康生活支援看護Ⅰ	2前	2			1		1	0		
	女性の健康生活支援看護Ⅱ	2後	2			1		1	0	1	
	女性の健康生活支援看護実習	3後	2			1		1	0	1	
	在宅看護論	2後	1			1	1		0		兼1
	療養生活支援看護Ⅰ	2後	2			1	1	1	0		
	療養生活支援看護Ⅱ	3前	2			1	1	1	1		
	療養生活支援看護実習	3後	4			1	1	1	1	1	
	急性期回復支援看護Ⅰ	3前	2			1		2			
	急性期回復支援看護Ⅱ	3後	1					2		1	
	急性期回復支援看護実習	4前	3					2		2	
	高齢者の健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	高齢者の健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			2			1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ	3後	2			2			1		
	高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ	4前	2			2			1		
	こどもの健康生活支援看護Ⅰ	2後	2			1					
	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	3前	2			1		0	1		
	こどもの健康生活支援看護実習	3後	2			1		0	1		
	こころの健康生活支援看護Ⅰ	3前	2			1					
	こころの健康生活支援看護Ⅱ	3後	2			1	1	1			
	こころの健康生活支援看護実習	4前	2			1	1	1		1	
看護の統合と発展	医療安全管理論	3前		1							兼1
	感染予防看護論	3前		1				1			
	クリティカルケア論	4前		1				1			兼2
	緩和ケア論	4前		1				1			
	グローバルヘルスケア論	4後		1		1					兼1
	看護教育学	3後		2		1					
	国際看護論	3後		1							兼4
	看護管理学	4前	2			1		1			
	災害看護論	4前		1							兼1
助産師課程専門科目群	キャリア形成論	4前		1							兼2
	総合ゼミナール	4通		2		9	5	5	2		
	卒業研究	4通		2		9	1				
	総合看護実習	4後	3			2	3	6	3		
	看護実践論	4後		1		1					兼4
	周産期医学論	2後		2							兼5
	助産学総論	3前		1		1					兼1
	助産管理論	3前		2		1		1			兼1
	助産診断技術学Ⅰ	3後		2		1		1	0		
卒業要件及び履修方法	助産診断技術学Ⅱ	3後		2		1		1	0		
	助産学演習	4前		1		1		1	0		
	助産学実習Ⅰ	4通		9		1		1	0	1	
	助産学実習Ⅱ	4通		2		1		1	0	1	
	卒業要件及び履修方法										
	必修科目108単位(教養科目群から16単位、連携科目から4単位、専門基礎科目群から25単位、専門科目群から63単位)、選択科目18単位以上(教養科目群から8単位以上[人間・社会学関連科目から4単位以上、コミュニケーション関連科目から3単位以上、自然科学関連科目から1単位以上]、専門基礎科目群から3単位以上、専門科目群から「クリティカルケア論」1単位又は「緩和ケア論」1単位及び「総合ゼミナール」2単位又は「卒業研究」2単位を含む7単位以上)修得し、合計で126単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:22単位[学期]、44単位[年間])										
	上記に加え、助産師課程を選択した場合、助産師国家試験受験資格を得るために、以下の科目を含め、145単位以上修得すること。 ・教養科目群:人間・社会学関連科目「ジェンダー論」「現代社会と家族」計2単位、自然科学関連科目「性と生殖の科学」1単位 ・専門科目群:看護の実践科目「家族の健康と看護」1単位 ・助産師課程専門科目群:8科目21単位 なお、助産師課程専門科目群で修得した単位のうち2単位は、専門科目群の選択科目を修得したものとして認める。										
	(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)										
	・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。										
	・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。										
	・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。										
	・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は 太字の赤字 としてください。										
	・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。										
	・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。										
	・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)										

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・兼任講師の都合により、「運動の科学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

【平成30年度】

- ・学修効果をより高めるため、「心理学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・兼任講師の都合により、「現代社会と家族」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・学修効果をより高めるため、「英語Ⅰ」の兼任・兼任の配置を「兼2」から「兼4」に変更。
- ・学修効果をより高めるため、「統計学」の配当年次を「1前」から「1後」に変更。
- ・学修効果をより高めるため、「情報科学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「連携ゼミナールⅠ」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「連携ゼミナールⅡ」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・兼任講師の都合により、「臨床栄養学」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・兼任講師の都合により、「病態治療学Ⅲ」の配当年次を「2後」から「2通」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「看護援助的関係論」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「基礎看護学Ⅲ」の配当年次を「2前」から「2後」に変更。
- ・学修効果をより高めるため、「基礎看護学Ⅳ」の配当年次を「2後」から「2前」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「看護学入門Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「女性の健康生活支援看護Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「女性の健康生活支援看護Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「女性の健康生活支援看護実習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「在宅看護論」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「療養生活支援看護Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「療養生活支援看護Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「療養生活支援看護実習」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「こどもの健康生活支援看護実習」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・専任教員の退職に伴い現在公募中のため、「総合ゼミナール」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・専任教員の就任辞退および退職に伴い現在公募中のため、「総合看護実習」の専任教員等の配置を「講師7」から「講師6」、「助教5」から「助教3」に変更。
- ・兼任講師の就任辞退により、「周産期医学論」の兼任・兼任の配置を「兼6」から「兼5」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産診断技術Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産診断技術Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産学演習」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産学実習Ⅰ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・専任教員の就任辞退に伴い現在公募中のため、「助産学実習Ⅱ」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・兼任講師の都合により、「家族の健康と看護」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。

【令和元年度】

- ・入学当初から学生同士の関わりを深め、離籍者を減らすことを目的として、「運動の科学・実技」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
- ・学修効果をより高めるため、「英語Ⅰ」の兼任教員の配置を「兼4」から「兼2」に変更。授業クラスを少人数化して、1クラス1名の教員が授業を担当する方法に切り替えたため。
- ・学修効果をより高めるため、「性と生殖の科学」に専任教員1名を追加。(H30教員審査済)
- ・就任辞退した専任教員の枠を補充したため、「連携ゼミナールⅠ」、「看護援助的関係論」、「女性の健康生活支援看護Ⅰ」、「女性の健康生活支援看護Ⅱ」、「女性の健康生活支援看護実習」、「こどもの健康生活支援看護Ⅱ」、「こどもの健康生活支援看護実習」、「総合ゼミナール」、「総合看護実習」、「助産管理論」、「助産診断技術Ⅰ」、「助産診断技術Ⅱ」、「助産学演習」、「助産学実習Ⅰ」、「助産学実習Ⅱ」にそれぞれ専任教員を追加。(H30教員審査済)
- ・学修効果をより高めるため、「音楽療法」の兼任教員の配置を「兼1」から「兼2」に変更。当該分野の、専門性の異なる2名をオムニバス形式で配置することにより、多面的で幅広い学修を目的としたため。
- ・専任教員(助手)の就任辞退に伴い現在公募中のため、「基礎看護学実習Ⅰ」、「基礎看護学実習Ⅱ」の専任教員(助手)の配置を「4」から「2」に変更し、兼任の実習助手を2名配置予定。
- ・平成29-30年度入学者数が設置計画時の予定を超過し、予定していた実習施設と実習期間では不足するため、「女性の健康生活支援看護実習」、「こどもの健康生活支援看護実習」の配当年次を「3後」から「3後・4前」に変更。
- ・学修効果をより高めるため、「助産管理論」に兼任教員1名を追加。院内助産・助産師外来などの専門性の高い実務家教員を配置することにより、幅広い学修を目的としたため。

- (注) ・ 2(1) 一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
61 科目	49 科目	0 科目	110 科目	61 科目 [-]	49 科目 [-]	0 科目 [-]	110 科目 [-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例: 1科目減の場合: △1)

(3) 未開講科目「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目「該当なし」

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は，「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（3）と廃止科目（4）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（A）}} = \frac{0}{110} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が，「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	6465.45㎡	-㎡	-㎡	6465.45㎡				
	運動場用地	1487.59㎡	-㎡	-㎡	1487.59㎡				
	小 計	7953.04㎡	-㎡	-㎡	7953.04㎡				
	そ の 他	-㎡	-㎡	-㎡	-㎡				
	合 計	7953.04㎡	-㎡	-㎡	7953.04㎡				
(2)校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		8361.34㎡ (8361.34㎡)	㎡ (㎡)	㎡ (㎡)	8361.34㎡ (8361.34㎡)				
(3)教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		8室	15室	5室	1室 (補助職員0人)	0 (補助職員0人)			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		看護学部看護学科			36 室				
(5)図書・設備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	経常経費による資料購入を行っているため (元)	
			電子ジャーナル 〔うち外国書〕						
	看護学部	15,000 [1,040] 14,906 [-957] (16,218 [959])	41 [5] (41 [5])	3 [3] (3 [3])	1,210 1,277 (1,290)	4,063 (4,063)	89 (89)		
	計	15,000 [1,040] 14,906 [-957] (16,218 [959])	41 [5] (41 [5])	3 [3] (3 [3])	1,210 1,277 (1,290)	4,063 (4,063)	89 (89)		
(6)図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		484.50㎡		95		30,290			
(7)体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		-㎡		体 育 室 359 ㎡					
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャーナル・データベースの設備費（運用コストを含む。）を含む。
		教員1人当り研究費等	300千円	300千円	図書購入費	9,045千円	5,400千円	-千円	
		共同研究費等	300千円	500千円	設備購入費	51,210千円	-千円	-千円	
	学生1人当り納付金	第1年次 1,680千円	第2年次 1,480千円	第3年次 1,480千円	第4年次 1,480千円	第5年次 -千円	第6年次 -千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大 学 の 名 称		一宮研伸大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
看護学部 看護学科	年 4	人 80	年次 人 3年次 6	人 332	学士 (看護学)	倍 1.17	年度 -	年度 平成29年度	年度 愛知県一宮市常盤通五丁目4番1	
大 学 の 名 称		愛知きわみ看護短期大学								備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
看護学科	年 3	人 -	年次 人 -	人 -	短期大学士 (看護学)	倍 -	年度 -	年度 平成16年度	年度 愛知県一宮市常盤通五丁目4番1	平成29年度より学生募集停止 平成31年度廃止認可申請書提出

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学（大学院含む）、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
（専攻科及び別科を除く）。
・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き（平成31年度改訂版）」と同じです。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
専 教授	土井 まつ子	平成29年 4 月 ・研究入門 ・生体防御機構と免疫 ・看護学入門Ⅰ ・看護学入門Ⅱ ・看護実践論
専 教授	吉野 昌孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・生化学 ・解剖生理学演習 ・病態治療学概論 ・病態治療学Ⅰ ・病態治療学Ⅱ ・病態治療学Ⅲ ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	吉野 恵子	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・解剖生理学概論 ・解剖生理学Ⅰ ・解剖生理学Ⅱ ・解剖生理学演習 ・臨床薬理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	榊原 久孝	平成31年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論 ・グローバルヘルスケア論 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	榊原 久孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論
専 教授	白鳥 さつき	平成30年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・看護教育学 ・看護管理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	白鳥 さつき	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・基礎看護学Ⅰ

【平成29年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
専 教授	土井 まつ子	平成29年 4 月 ・研究入門 ・生体防御機構と免疫 ・看護学入門Ⅰ ・看護学入門Ⅱ ・看護実践論
専 教授	吉野 昌孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・生化学 ・解剖生理学演習 ・病態治療学概論 ・病態治療学Ⅰ ・病態治療学Ⅱ ・病態治療学Ⅲ ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	吉野 恵子	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・解剖生理学概論 ・解剖生理学Ⅰ ・解剖生理学Ⅱ ・解剖生理学演習 ・臨床薬理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	榊原 久孝	平成31年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論 ・グローバルヘルスケア論 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	榊原 久孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論
専 教授	白鳥 さつき	平成30年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・看護教育学 ・看護管理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	白鳥 さつき	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・基礎看護学Ⅰ

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
専 教授	土井 まつ子	平成29年 4 月 ・研究入門 ・生体防御機構と免疫 ・看護学入門Ⅰ ・看護学入門Ⅱ ・看護実践論
専 教授	吉野 昌孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・生化学 ・解剖生理学演習 ・病態治療学概論 ・病態治療学Ⅰ ・病態治療学Ⅱ ・病態治療学Ⅲ ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	吉野 恵子	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・解剖生理学概論 ・解剖生理学Ⅰ ・解剖生理学Ⅱ ・解剖生理学演習 ・臨床薬理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	榊原 久孝	平成31年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論 ・グローバルヘルスケア論 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	榊原 久孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論
専 教授	白鳥 さつき	平成30年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・看護教育学 ・看護管理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	白鳥 さつき	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・基礎看護学Ⅰ

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任 (予定) 年月>
		担当授業科目名
専 教授	藤田 せつ子	平成31年 4 月 ・研究入門 ・看護学入門Ⅰ
専 教授	土井 まつ子	平成29年 4 月 ・研究入門 ・生体防御機構と免疫 ・看護学入門Ⅰ ・看護学入門Ⅱ ・看護実践論
専 教授	吉野 昌孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・生化学 ・解剖生理学演習 ・病態治療学概論 ・病態治療学Ⅰ ・病態治療学Ⅱ ・病態治療学Ⅲ ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	吉野 恵子	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・解剖生理学概論 ・解剖生理学Ⅰ ・解剖生理学Ⅱ ・解剖生理学演習 ・臨床薬理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
専 教授	榊原 久孝	平成31年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論 ・グローバルヘルスケア論 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	榊原 久孝	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・疫学 ・保健・医療・福祉システム論 ・公衆衛生学 ・プライマリヘルスケア論
専 教授	白鳥 さつき	平成30年 4 月 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・看護教育学 ・看護管理学 ・総合ゼミナール ・卒業研究
兼任 講師	白鳥 さつき	平成29年 4 月 ・教養ゼミナール ・基礎看護学Ⅰ

専	教授	小林 たつ子 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究
		溝口 満子 平成31年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・生命倫理 ・医療と看護の倫理 ・プライマリヘルスケア論 ・療養生活支援看護Ⅰ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・急性期回復支援看護Ⅰ ・総合ゼミナール ・卒業研究
		下村 明子 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・プライマリヘルスケア論 ・こどもの健康生活支援看護Ⅰ ・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
		田辺 圭子 平成29年 4月	・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護学入門Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅱ ・女性の健康生活支援看護実習 ・助産診断技術学Ⅰ ・助産診断技術学Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・助産学総論 ・助産管理論 ・助産学演習 ・助産診断技術学Ⅰ ・助産診断技術学Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・助産学実習Ⅰ ・助産学実習Ⅱ
専	教授	石村 佳代子 平成31年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護援助的関係論 ・こころの健康生活支援看護Ⅰ ・こころの健康生活支援看護Ⅱ ・こころの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
		石村 佳代子 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護援助的関係論 ・こころの健康生活支援看護Ⅰ ・こころの健康生活支援看護Ⅱ ・こころの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
		野村 千文 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・家族の健康と看護 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・総合看護実習
		野村 千文 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・家族の健康と看護 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・総合看護実習
専	教授	小林 たつ子 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・基礎看護学Ⅰ ・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究
		溝口 満子 平成29年 4月	・生命倫理 ・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・医療と看護の倫理 ・プライマリヘルスケア論 ・療養生活支援看護Ⅰ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・急性期回復支援看護Ⅰ ・総合ゼミナール ・卒業研究
		下村 明子 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・プライマリヘルスケア論 ・こどもの健康生活支援看護Ⅰ ・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
		田辺 圭子 平成29年 4月	・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護学入門Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅱ ・女性の健康生活支援看護実習 ・助産学総論 ・助産管理論 ・助産学演習 ・助産診断技術学Ⅰ ・助産診断技術学Ⅱ ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・助産学実習Ⅰ ・助産学実習Ⅱ
専	教授	石村 佳代子 平成31年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護援助的関係論 ・こころの健康生活支援看護Ⅰ ・こころの健康生活支援看護Ⅱ ・こころの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
		石村 佳代子 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・看護援助的関係論 ・こころの健康生活支援看護Ⅰ ・こころの健康生活支援看護Ⅱ ・こころの健康生活支援看護実習 ・総合ゼミナール ・卒業研究 ・総合看護実習
		野村 千文 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・家族の健康と看護 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・総合看護実習
		野村 千文 平成29年 4月	・教養ゼミナール ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・家族の健康と看護 ・高齢者の健康生活支援看護Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合ゼミナール ・総合看護実習

専	助教	吉田 ひとみ 平成30年 4月	専	助教	吉田 ひとみ 平成30年 4月	専	助教	吉田 ひとみ 平成30年 4月	専	助教	吉田 ひとみ 平成30年 4月
		・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・総合看護実習			・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・総合看護実習			・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・総合看護実習			・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・総合看護実習
専任	助教	森 仁美 平成30年 4月	専任	助教	森 仁美 平成30年 4月						
		・女性の健康生活支援看護Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅱ ・女性の健康生活支援看護実習 ・助産診断技術Ⅰ ・助産診断技術Ⅱ ・助産学演習 ・助産学実習Ⅰ ・助産学実習Ⅱ			・女性の健康生活支援看護Ⅰ ・女性の健康生活支援看護Ⅱ ・女性の健康生活支援看護実習 ・総合看護実習 ・助産診断技術Ⅰ ・助産診断技術Ⅱ ・助産学演習 ・助産学実習Ⅰ ・助産学実習Ⅱ						
専	助教	橋本 侑美 平成31年 4月	専	助教	橋本 侑美 平成31年 4月	専	助教	橋本 侑美 平成31年 4月	専	助教	橋本 侑美 平成31年 4月
		・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習			・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習			・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習			・こどもの健康生活支援看護Ⅱ ・こどもの健康生活支援看護実習
専	助教	伊東 裕康 平成30年 4月	専	助教	伊東 裕康 平成30年 4月	専	助教	伊東 裕康 平成30年 4月	専	助教	伊東 裕康 平成30年 4月
		・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール			・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール			・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール			・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール
兼任	講師	伊東 裕康 平成29年 4月	兼任	講師	伊東 裕康 平成29年 4月	兼任	講師	伊東 裕康 平成29年 4月	兼任	講師	伊東 裕康 平成29年 4月
		・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門			・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門			・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門			・微生物学 ・教養ゼミナール ・研究入門
専	助教	肥田 武 平成29年 4月	専	助教	肥田 武 平成29年 4月	専	助教	肥田 武 平成29年 4月	専	助教	肥田 武 平成29年 4月
		・国語表現 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール			・国語表現 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール			・国語表現 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール			・国語表現 ・教養ゼミナール ・研究入門 ・連携ゼミナールⅠ ・連携ゼミナールⅡ ・アカデミックライティング ・総合ゼミナール
専	助教	赤羽根 章子 平成31年 4月	専	助教	赤羽根 章子 平成31年 4月						
		・看護学入門Ⅰ ・在宅看護論 ・療養生活支援看護Ⅰ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・総合看護実習			・看護学入門Ⅰ ・在宅看護論 ・療養生活支援看護Ⅰ ・療養生活支援看護Ⅱ ・療養生活支援看護実習 ・総合看護実習						
兼任	講師	赤羽根 章子 平成29年 4月	兼任	講師	赤羽根 章子 平成29年 4月						
		・看護学入門Ⅰ ・在宅看護論 ・療養生活支援看護Ⅰ			・看護学入門Ⅰ ・在宅看護論 ・療養生活支援看護Ⅰ						
専	助教	山下 美智子 平成31年 4月	専	助教	山下 美智子 平成31年 4月	専	助教	山下 美智子 平成31年 4月	専	助教	山下 美智子 平成31年 4月
		・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習			・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習			・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習			・高齢者の健康生活支援看護Ⅱ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅰ ・高齢者の健康生活支援看護実習Ⅱ ・総合看護実習
専	助教	田畑 真澄 平成31年 4月	専	助教	田畑 真澄 平成29年 4月	専	助教	田畑 真澄 平成29年 4月	専	助教	田畑 真澄 平成29年 4月
		・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習			・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習			・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習			・基礎看護学Ⅱ ・基礎看護学Ⅲ ・基礎看護学Ⅳ ・基礎看護学Ⅴ ・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ ・総合看護実習
兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月	兼任	講師	坂田 久美子 平成29年 4月
		・クリティカルケア論 ・看護実践論			・クリティカルケア論 ・看護実践論			・クリティカルケア論 ・看護実践論			・クリティカルケア論 ・看護実践論
兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月	兼任	講師	鈴木 里美 平成29年 4月
		・クリティカルケア論			・クリティカルケア論			・クリティカルケア論			・クリティカルケア論

兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月 ・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月 ・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月 ・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月 ・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月 ・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月 ・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月 ・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月 ・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月 ・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月 ・音楽療法
兼任	講師	宮里 和子 平成29年 4月 ・助産学総論 ・助産管理論
兼任	講師	三嶋 廣繁 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鹿山 由美 平成29年 4月 ・支援論 ・英語Ⅰ
兼任	講師	鄭 躍慶 平成29年 4月 ・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月 ・哲学入門
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4月 ・看護実践論
兼任	講師	森 英樹 平成29年 4月 ・法学
兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月 ・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月 ・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月 ・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月 ・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月 ・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月 ・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月 ・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月 ・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月 ・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月 ・音楽療法
兼任	講師	宮里 和子 平成29年 4月 ・助産学総論 ・助産管理論
兼任	講師	三嶋 廣繁 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鹿山 由美 平成29年 4月 ・支援論 ・英語Ⅰ
兼任	講師	鄭 躍慶 平成29年 4月 ・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月 ・哲学入門
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4月 ・看護実践論
兼任	講師	森 英樹 平成29年 4月 ・法学
兼任	講師	志賀 由美 平成29年 4月 ・国際看護論
兼任	講師	濱井 妙子 平成29年 4月 ・国際看護論
兼任	講師	仲井 美由紀 平成29年 4月 ・英語文献講読 ・家族の健康と看護 ・グローバルヘルスケア論 ・国際看護論
兼任	講師	中川 善之 平成29年 4月 ・生物と環境
兼任	講師	横地 高志 平成29年 4月 ・生体防御機構と免疫
兼任	講師	松本 義也 平成29年 4月 ・生体防御機構と免疫
兼任	講師	國島 典子 平成29年 4月 ・コミュニケーション支援論
兼任	講師	鈴木 朋子 平成29年 4月 ・コミュニケーション支援論
兼任	講師	山口 節子 平成29年 4月 ・臨床栄養学
兼任	講師	後藤 幸生 平成29年 4月 ・音楽療法
兼任	講師	宮里 和子 平成29年 4月 ・助産学総論 ・助産管理論
兼任	講師	三嶋 廣繁 平成29年 4月 ・病態治療学Ⅲ ・周産期医学論
兼任	講師	鹿山 由美 平成29年 4月 ・支援論 ・英語Ⅰ
兼任	講師	鄭 躍慶 平成29年 4月 ・運動の科学・実技 ・中国語
兼任	講師	福井 雅彦 平成29年 4月 ・哲学入門
兼任	講師	岡野 晶子 平成29年 4月 ・看護実践論
兼任	講師	森 英樹 平成29年 4月 ・法学

兼任	講師	新改 法子 平成29年 4月
		・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4月
		・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4月
		・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4月
		・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4月
		・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4月
		・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4月
		・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4月
		・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4月
		・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4月
		・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4月
		・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4月
		・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4月
		・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4月
		・現代社会と経済
兼任	講師	ANDREW DAVID MCKERNON 平成29年 4月
		・英語Ⅰ ・英語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 和良 平成29年 4月
		・化学
兼任	講師	伊藤 伸一 平成29年 4月
		・医療概論
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4月
		・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4月
		・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4月
		・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4月
		・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4月
		・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4月
		・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4月
		・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4月
		・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4月
		・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4月
		・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4月
		・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4月
		・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4月
		・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4月
		・現代社会と経済
兼任	講師	ANDREW DAVID MCKERNON 平成29年 4月
		・英語Ⅰ ・英語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 和良 平成29年 4月
兼任	講師	伊藤 伸一 平成29年 4月
		・医療概論
兼任	講師	新改 法子 平成29年 4月
		・看護実践論
兼任	講師	池田 和子 平成29年 4月
		・看護実践論
兼任	講師	千田 隆夫 平成29年 4月
		・解剖生理学演習
兼任	講師	久保原 信司 平成29年 4月
		・ポルトガル語Ⅰ ・ポルトガル語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 千歳 平成29年 4月
		・国際看護論
兼任	講師	佐藤 尚子 平成29年 4月
		・文化人類学
兼任	講師	松葉 和久 平成29年 4月
		・臨床薬理学
兼任	講師	藤原 奈佳子 平成29年 4月
		・医療経済
兼任	講師	佐々木 政司 平成29年 4月
		・現代社会と家族
兼任	講師	黒柳 淳 平成29年 4月
		・運動の科学 ・加齢の科学
兼任	講師	大久保 貴仁 平成29年 4月
		・災害看護論
兼任	講師	青山 恵美 平成29年 4月
		・医療安全管理論
兼任	講師	小澤 淑子 平成29年 4月
		・英語Ⅱ ・医療英語
兼任	講師	木村 隆之 平成29年 4月
		・現代社会と経済
兼任	講師	ANDREW DAVID MCKERNON 平成29年 4月
		・英語Ⅰ ・英語Ⅱ
兼任	講師	佐藤 和良 平成29年 4月
兼任	講師	伊藤 伸一 平成29年 4月
		・医療概論

兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三隆 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	唐澤 善幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	早川 朋人 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	金子 淳 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	小島 久典 平成29年 4 月 ・こころの科学
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4 月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	嶋津 光真 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	岡 京子 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	白石 弘章 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	今永 弓子 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三隆 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	唐澤 善幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	金子 淳 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	小島 久典 平成29年 4 月 ・こころの科学
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4 月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	嶋津 光真 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	今永 弓子 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	海川 和幸 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	村瀬 寛 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	岡澤 光芝 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅰ
兼任	講師	近藤 三隆 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	今井 秀 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅱ
兼任	講師	北川 幸子 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	金子 淳 平成29年 4 月 ・病態治療学Ⅲ
兼任	講師	小島 久典 平成29年 4 月 ・こころの科学
兼任	講師	中北 武男 平成29年 4 月 ・性と生殖の科学
兼任	講師	嶋津 光真 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	坂井 啓造 平成29年 4 月 ・周産期医学論
兼任	講師	今永 弓子 平成29年 4 月 ・周産期医学論

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

溝口満子教授 教育の充実を図るため就任年度を前倒した。(29)
田畑真澄助教 教育の充実を図るため就任年度を前倒した。(29)

【平成30年度】

岡田摩理講師 一身上の都合により就任辞退(30)
岡田摩理非常勤講師 一身上の都合により就任辞退(30)
森仁美助教 一身上の都合により就任辞退(30)
赤羽根章子助教 一身上の都合により就任辞退(30)
赤羽根章子非常勤講師 一身上の都合により就任辞退(30)
佐藤和良非常勤講師 自己都合による退職(30)
森英樹非常勤講師 自己都合による退職(30)
川原妙非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
小牧亮也非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
Conrad Bucsics非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
杉浦信夫非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
南谷智之非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
山川紀世志非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
Matthew. B. C. Estelle非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
西川みゆき准教授 欠員補充のため採用(30) 平成30年7月教員審査済

【令和元年度】

森田せつ子教授 学長交代のため採用(元)
加藤千明講師 欠員補充のため採用(元) 平成30年7月教員審査済
鹿山由美非常勤講師 自己都合による退職(元)
前川厚子非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
Andrew. D. McKernon非常勤講師 自己都合による退職(元)
李徳林非常勤講師 前任者辞退のため採用(元)
唐澤善幸非常勤講師 自己都合による退職(元)
大飼智雄非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
金子淳非常勤講師 自己都合による退職(元)
兒玉俊介非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
小島久典非常勤講師 自己都合による退職(元)
丸井友泰非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
菅田文子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)
宮里和子非常勤講師 自己都合による退職(元)
赤川里美非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
真野真紀子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

溝口満子教授 教育の充実を図るため就任年度を前倒した。(29)
田畑真澄助教 教育の充実を図るため就任年度を前倒した。(29)

【平成30年度】

岡田摩理講師 一身上の都合により就任辞退(30)
岡田摩理非常勤講師 一身上の都合により就任辞退(30)
森仁美助教 一身上の都合により就任辞退(30)
赤羽根章子助教 一身上の都合により就任辞退(30)
赤羽根章子非常勤講師 一身上の都合により就任辞退(30)
佐藤和良非常勤講師 自己都合による辞退(30)
森英樹非常勤講師 自己都合による辞退(30)
川原妙非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
小牧亮也非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
Conrad Bucsis非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
杉浦信夫非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
南谷智之非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
山川紀世志非常勤講師 前任者辞退のため採用(30)
Matthew. B. C. Estelle非常勤講師 教育の充実を図るため採用(30)
西川みゆき准教授 欠員補充のため採用(30) 平成30年7月教員審査済

【令和元年度】

森田せつ子教授 学長交代のため採用(元)平成31年1月教員審査済
加藤千明講師 欠員補充のため採用(元) 平成30年7月教員審査済
鹿山由美非常勤講師 自己都合による辞退(元)
前川厚子非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
Andrew. D. McKernon非常勤講師 自己都合による退職(元)
李徳林非常勤講師 前任者辞退のため採用(元)
唐澤善幸非常勤講師 自己都合による辞退(元)
大飼智雄非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
金子淳非常勤講師 自己都合による辞退(元)
兒玉俊介非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
小島久典非常勤講師 自己都合による辞退(元)
丸井友泰非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
菅田文子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)
宮里和子非常勤講師 自己都合による辞退(元)
赤川里美非常勤講師 欠員補充のため採用(元)
真野真紀子非常勤講師 教育の充実を図るため採用(元)

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
10	5	7	8	30	11	6	7	6	30
(6)	(2)	(5)	(1)	(14)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
11	6	7	6	30	11	6	7	8	32
[1]	[1]	[-]	[Δ2]	[-]	[1]	[1]	[-]	[-]	[2]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
- ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	9	9
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
- [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{30} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{9}{30} = \boxed{30} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況 「該当なし」

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由							
1	講師	岡田 摩理	H29.3	必修	連携ゼミナールⅠ	①	一身上の都合により就任辞退（30）							
				必修	連携ゼミナールⅡ	①								
				必修	看護援助的関係論	①								
				必修	こどもの健康生活支援看護Ⅱ	①								
				必修	こどもの健康生活支援看護実習	①								
				選択	総合ゼミナール	①								
				必修	総合看護実習	①								
2	助教	森 仁美	H29.3	必修	女性の健康生活支援看護Ⅰ	①	一身上の都合により就任辞退（30）							
				必修	女性の健康生活支援看護Ⅱ	①								
				必修	女性の健康生活支援看護実習	①								
				必修	総合看護実習	①								
				選択	助産診断技術学Ⅰ	①								
				選択	助産診断技術学Ⅱ	①								
				選択	助産学演習	①								
				選択	助産学実習Ⅰ	①								
				選択	助産学実習Ⅱ	①								
3	助教	赤羽根 章子	H29.9	選択	看護学入門Ⅰ	③	一身上の都合により就任辞退（30） 後任現在公募中							
				必修	在宅看護論	③								
				必修	療養生活支援看護Ⅰ	③								
				必修	療養生活支援看護Ⅱ	③								
				必修	療養生活支援看護実習	③								
				必修	総合看護実習	③								
				合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数			担当科目数 の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
3	人	必修	15	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	15	科目	
		選択	7	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	7	科目	
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	
		計	22	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	22	科目	

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
「該当なし」										
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
3 人	必修	15 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	15 科目
	選択	7 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	7 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	22 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	22 科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{3}{30} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
「該当なし」										
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する (している) 場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する (している) 場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「大学の所見」及び「学生への周知方法」
 シラバスの配布や、新学期開始の際オリエンテーションで教員を紹介している。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
設 置 時 (28年10月)	1. 設置の趣旨・目的等 が生かされるよう、設 置計画を確実に履行す ること。また、開設時 から4年制大学にふさ わしい教育研究活動 を行うことはもとより、 その水準を一層向上さ せるよう努めること。	留意事項 設置計画時のカリキュラム どおり教育活動を実施して います。また、教育活動の 向上に努めています。 (29)	履行済
	2. 運動場が別地にある ことから、教育に支障 のないようにすること はもとより、学生の課 外活動等にも配慮する こと。	留意事項 設置計画時のカリキュラム に基づき教育に支障のない よう履行し、また、学生の 課外活動等にも配慮してい ます。(29)	履行済
設置計画履行状況 調 査 時 (30年2月)	看護学部看護学科にお いて、定年規程に定め る退職年齢を超える専 任教員数の割合が比較 的高いことから、定年 規程の趣旨を踏まえた 適切な運用に努めると ともに、教員組織編制 の将来構想について検 討すること。	改善意見 大学の運営検討機関である ガバナンス会議を設置し、 検討を開始している。 (30)	履行中 大学完成時において定年規 程に定める年齢以上の教員 を、定年規程に基づく適正 な年齢になるよう努める。 (30)
設置計画履行状況 調 査 時 (令和元年5月)	学長を補佐する役職者 を設けるなど大学組織 が適切に機能する取組 に努めること。	指摘事項 (改善) 新たに副学長を任命し、大 学組織が適切に機能する よう努めています。(元)	履行済

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
「該当なし」	「該当なし」

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD・SD委員を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

年間計12回開催し、教員4名、職員2名が参加した。

c 委員会の審議事項等

1. FD研修プログラムの立案・実施・評価を行う。
2. SD研修プログラムの立案・実施・評価を行う。
3. FD、SD研修プログラムの評価結果を教職員へフィードバックする。
4. 公開講座の立案・実施・評価を行う。
5. 次年度予算を申請する。
6. 次年度活動計画案を作成する。
7. 年間活動報告書を作成する。記載内容：実施日時、実施内容、今後の検討課題、来年度委員会計画案
8. 3月下旬までに次年度委員へ引継ぎを行う。

② 実施状況

a 実施内容

1. FD研修会

【研究支援】文部科学省科研申請に向けての研修

【教育支援】ネパール国カトマンズ地区の病院に対する感染対策の支援

2. SD研修会

「ADHD（注意欠陥・多動性障害）について」をテーマに、外部講師を招き研修会を行った。

3. 公開講座

「いつまでも健康で過ごすために！－感染予防の視点から－」をテーマに外部講師を招き講座を行った。

b 実施方法

1. FD研修会

【研究支援】①文部科学省科学研究費申請に向けての研修

②「若手研究者セミナー」

研究支援に関する研修を企画し、実施した。研修後はアンケートを行いフィードバックを行った。

【教育支援】①ネパール国カトマンズ地区の病院に対する感染対策の支援

教育支援に関する研修を企画し、実施した。研修後はアンケートを行いフィードバックを行った。

2. SD研修会

①「ADHD（注意欠陥・多動性障害）について」をテーマに、外部講師を招き研修会を行った。

②テーマ：良好な人間関係構築のための積極的傾聴法

③テーマ：本学図書館が1UPを目指すために

3. 公開講座

「いつまでも健康で過ごすために！ー感染予防の視点からー」

外部講師を招き、駅ビル内大会議室にて、市民および学部生、教職員参加のもと講演会を行った。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. FD研修会

【研究支援】①平成30年7月25日（水）参加人数24名

②平成30年11月29日（木）参加人数24名

【教育支援】①平成30年6月27日（水）参加人数15名

2. SD研修会

①平成30年10月24日（水）

②平成30年12月26日（水） 参加人数36名

③平成30年11月28日（水）

3. 公開講座

平成31年1月20日（土）参加人数194名（市民63、学部生93、教職員38）

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 「該当なし」

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

平成29年4月に四年制大学として開学して以来、入学者は初年度97名、2年度98名、今年度87名（3年次編入1名）の学生が入学し、初年度以来、少人数学生にアドバイザー教員が学生に寄り添う形で勉強意欲を高めるよう進めてきました。今年度は、さらにそれを進めるために教員と学生の双方向授業を展開し、少人数の学生への教育形態を重視した連携科目群にゼミナール科目を配置して指導してきました。これらの方法により学生と教員のコミュニケーションが良くとれ、勉強意欲の高まりが感じられます。さらに、学生の自己学習力を強化する取り組みとして、ゼミナール室を開放して自習的な学習を推進する「看護技術アワー」等の設定等により学生の自主的な学習が多くみられるようになり、学生の積極的な発言がみられ本学の設置の趣旨に書かれた看護教育の目標に沿った教育が順調に進んでいることが考えられます。

② 自己点検・評価報告書

自己点検・評価を具体的に進めるために、執行部として新たに副学長を任命し、委員長として就任任命し、その指示のもとに、既に任命した若手教員2名に研修に派遣するとともに、副学長を中心に、いかにして具体的に内容を築いていくかの議論を進めています。さらに、評価機構から講師を招聘し、全学の教職員に講義を行っていただき、自己点検・評価の重要性を認識してもらうなど意思一致を図るようにしています。ただ、自己点検・評価報告書作成は当初決定した完成年度の3年後に認証評価を受け、その結果は、令和6年度中に公表する予定です。

a 公表（予定）時期

本学ホームページに公開予定です。（令和6年7月頃）

b 公表方法

自己点検・評価報告書を刊行し、本学図書館に設置するとともに、本学実習施設、東海三県の大学及び中部地方の看護大学、関係地方公共団体及び学内教員に配布する予定です。

③ 認証評価を受ける計画

完成年度以降の自己評価・点検報告書が完成した時に評価機関（公益財団法人 日本高等教育評価機構）の評価を受けるよう検討を行っています。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 元 年 8 月 31 日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。